

川崎医療短期大学

広報誌 No.79

特集

今を創る先輩からのメッセージ

- 学友会活動報告／ホームカミングデー
- 第3回公開講座
- 震災復興支援ボランティア
- ハラスメント防止講演会／介護の日
- 地域探訪 くらしき&おかやま③
- 日本語に関する取り組み／新任職員紹介／上海からニーハオ!!／川崎エコプロジェクト
- インフォメーション

先輩から





| 特集 | Catch Your Dream

今

を創る先輩からのメッセージ

未来
夢

川崎医療短期大学は、来年度開学 40 周年を迎え、卒業生は 13,347 人にのぼります。その多くは、短大時代に学んだ医療・福祉・保育の知識を活かし、それぞれのフィールドで目覚ましい活躍をしています。

今回の特集は、看護科、臨床検査科、放射線技術科の卒業生に学生時代の様子やトップになるための秘訣^{ひけつ}を聞きました。今後の学生生活の参考に、また、夢に向かって進むための指標にしてください。

吉峯 由香

Yuka Yoshimine

川崎医科大学附属病院
高度救命救急センター 看護副主任

PROFILE

岡山県出身

1997年3月 第一看護科（現・看護科）卒業

1997年4月 川崎医科大学附属病院
高度救命救急センター配属

1998年2月 フライトナース

2011年7月 救急看護認定看護師

2012年4月 現職



命の現場で思うことすべては患者さんのために

学生時代の思い出

短大の3年間で一番印象に残り、かつ大変だった思い出は看護学実習です。実習は、学内で身に付けた知識を基に思考する力、およびその思考を基に患者さんの状況に応じて適切に行動する力を養い、自分なりの看護観を確立する場でもあると思います。

基礎実習では、臨床の先輩看護師に圧倒され、学内ではできていた血圧測定でさえ失敗してしまうほど緊張の毎日でした。そして、領域別実習では、終末期の患者さんを受け持ち、患者さんの言動にどう対応してよいか悩み、身の回りのお世話をしながらそっと寄り添うことしかできませんでした。しかし、学生として患者さんに少しでも自分ができることをさせていただきたいと行動したことによって、実習後半には心を開いて話をしてくださるようになり、気持ちが繋がったと実感できました。

そういう苦しい時、私に救いの手を差し伸べてくれたのは担当教員や学生の仲間でした。辛く苦しいけれど頑張っているのは自分一人ではないと気付いた時に、すごく気持ちが楽になり、実習も悪くないと感じることができました。先生方の温かいサポートと同じ目標に向かって共に歩む仲間を支えられて、有意義な実習を終えることができたと思います。

職場で努力していること

救急看護師として10数年経過した頃から、今後自分はどこに向かうべきなのか目標を見失いかけた時期がありました。このままではいけないと感じスペシャリストの道へ進む決意を固め、救急看護認定看護師の資格を取得しました。

認定看護師とは特定の看護分野で熟練した看護技術と知識を有し看護実践ができる者とされています。資格を取得することがゴールではなく、そこからがスタートです。看護ケアは、チームでの継続性や集団凝集力が欠かせないため、自分だけが低いレベルの看護実践をしても、看護の質は向上しません。認定看護師は、自分が実践モデルとなりコミュニケーションや人間関係の調整により、その集団にふさわしいリーダーシップを発揮することが求められます。自分の取り組みが評価されれば、スタッフにも継続され、職場の看護の質が向上して患者満足度の上昇に反映されてくると考えています。今後も実践モデルであり続けられるように、患者さんやスタッフの気持ち（けんしん）を理解し、調整的役割をとれるよう多角的に看護を考え、自己研鑽

に励んでいきたいと思っています。

在校生の皆さんに

私は、1997年に川崎医科大学附属病院に就職してすぐに高度救命救急センターに配属となりました。多種多様な診療科を備えている大学病院であり、同じ環境で長期間働くことは看護を幅広い視野で考えることが難しくなるため、部署異動も年に数回はあります。しかし、私は救急看護師として16年目に突入しました。

現在、ICUで集中治療管理を要する患者さんの看護や、救急外来で救急車搬入時からの初期対応や家族ケア、フライトナースとして現場ヘドクターヘリで駆けつけ、プレホスピタルケアにあたるなど、その時々に必要な役割を考えながら看護を行っています。毎日異なる環境での実践と振り返りにより、迅速で効果的な対応を追求して、成長するように頑張っています。

救急という特殊な環境下では、治療や処置が優先されがちであり、忙しく業務が複雑になりやすい職場のため、患者さん一人ひとりに充分目を向けられないこともあります。しかし、私たちは看護師であるということを常に忘れないように心掛けています。私たちスタッフは、その時その時の関わりだけでなく、患者さんを全人的に捉え、救急医療場面でも社会復帰（まいしん）までを見据えた看護を目指して関わっていききたいと考えて邁進しています。

学生の皆さんは、臨床実習で辛いことも多いと思いますが、実際の臨床現場では短期間の看護実習では感じるできない達成感ややりがいを覚えることができます。学生時代の学習は看護を实践するのに必要な基礎となり、それを応用発展させて看護が展開されます。今の時間を無駄にせず、しっかり勉強して、基礎知識を身に付けてください。皆さんと一緒に働ける日を心待ちにしています。



奥宮 敏可

Toshika Okumiya

国立大学法人 熊本大学大学院
生命科学研究部 教授

PROFILE

広島県出身
1981年 臨床検査科卒業
1981～ 高知医科大学医学部附属病院
1992年 検査部 臨床検査技師
1996年 東京医科歯科大学大学院
医学系研究科博士（前期）課程修了
1996～ 高知大学医学部
2004年 病態情報診断学教室 助手
2004年 熊本大学医学部保健学科 助教授
2005年 オランダ王国エラスムス大学医学部
臨床遺伝学客員研究員（文科省派遣）
2006年 熊本大学医学部保健学科 准教授
2012年 現職 医学博士



既成概念にとらわれないチャレンジを

学生時代の思い出

学生時代の私は、決して優秀な学生ではなく、試験はいつも合格最低ラインの超低空飛行でした。サークルとして所属していたソフトボールもさほど上手ではなく、当初はどちらかと言えば、「可もなく不可もなく」的な学生生活だったと思います。しかし、2年生の臨地実習が始まると、毎日の実習準備や病院での実践的な実習に追われながらも、充実した日々を送ることができました。この時代に習得した実験技術は、現在の研究や学生教育に間違いなく役立っています。

ある日の夕方、臨床検査科のM先生とS先生が一升瓶を抱えて、突然私のアパートに入って来られ、「奥宮、これから飲むぞ!」と叫びつつ、いきなりグラスにお酒を注いで、勝手に私の部屋で酒盛りが始まったのです。その時の詳しい話は覚えていませんが、「今一パツ」としない私に対し、激励の気持ちを込めて来られたのではないかと今では理解しています。その甲斐^{かい}あってか(?)、私は留年することなく無事卒業し、国家試験にも受かり高知医科大学に就職することができました。

就職してから現在まで

就職した当時の高知医科大学附属病院は、まだ開院前で体育館のようなフロアに何もない状態でした。そこに机や椅子を並べるところから仕事は始まりました。当時の検査部長は元川崎医療短期大学副学長の佐々木 匡秀先生でした。佐々木先生からは、私たちに大きなミッションが与えられました。それは、検体を自動搬送し自動分析機と連結して自動測定するシステム（ベルトラインシステム）の構築でした。私は約5年間、このベルトラインシステムの構築に参画しました。この5年間は私にとっての揺籃^{ようらん}期でした。その後、気持ちに大きな変化が起り、臨床の場で働く臨床検査技師は、研究マインドを持った科学者の素養を有するべきだと強く思うようになりました。それから6年間はまさに第1次激動期で、何かを思い付くたびに実験し、発表・論文にするといった作業を繰り返していました。しかし、自己流の研究には限界があることに気が付き、11年間働いた職場を辞して妻子は妻の実家に預け、単身上京し、もう一度勉強し直すことにしました。本物の研究者の下で、全ての時間を自分の興味と好奇心のため

に費やせる喜びは、何にも代え難いものでした。この時初めて遺伝性代謝病の研究に出会いました。これが第2次激動期です。東京での研究生活が一段落した後、高知医科大学に教員として復職しました。人生初の安定期の到来です。しかし、この安定期も長くは続かず、縁あって熊本大学で次世代の臨床検査技師教育に携わることになり、第3次激動期が始まりました。熊本大学に赴任して間もなく、私は留学への強い執着を持つようになり、半ば強引に文科省の海外派遣プログラムに応募したところ、幸いにも採択され、オランダ王国エラスムス大学医学部の Reuser 博士のもとで遺伝性代謝病の研究に従事することが許されました。帰国後も Reuser 先生とは共同研究を継続し、私が指導する大学院生を短期留学生として受け入れていただくなど、国際的な共同研究体制が整い、現在、大学院生や学部学生とともに日々研究に励んでいます。

在校生の皆さんに

現在、医療界は大きな変革が求められています。検査室に働く検査技師も従来のようなステレオタイプの技術者ではなく、問題解決能力のある研究者の資質が求められるようになりました。在校生の皆さんには是非とも既成概念にとらわれることなく、様々な分野にチャレンジし、自分の未来を切り拓いていただきたいと願っております。皆さんのご健闘を心よりお祈りします。



オランダ留学時代（筆者右端）

小川 正人

Masato Ogawa

産業医科大学病院
放射線部 技師長

PROFILE

福岡県出身

1980年3月 放射線技術科卒業

1980年4月 産業医科大学病院放射線部

1996年4月 CT検査室主任

2011年4月 放射線診断科長

2012年4月 現職



成長の鍵は、目標・信頼・仲間・謙虚さ！

学生時代の思い出

1977年、放射線技術科1期生として入学しましたが、普通の学生生活を送ったのははじめの3カ月程度でした。その後は、大学には行かない、勉強はしない、積極性があったのは社会勉強のみ。大学側からすると“いわゆる問題児”だったのかもしれませんが、私にとっては最高に楽しい時代で、後々の自由な発想と行動の基盤となっています。

卒業間近の1月末、指導の先生から呼び出され、「君は成績が悪く国家試験も到底合格できないので卒業延期になりました」と通告されました。1時間以上のお説教の後、「卒業延期者の面倒をみるシステムができていないので卒業させます。あとは好きなようにしなさい」と言われました。その後、1カ月弱の猛勉強で国家試験に合格しましたが、この通告がなければ診療放射線技師（以下、技師）になれなかったでしょう。

就職してから現在まで

卒業後の30余年は、迷走と葛藤の時期、川崎医療短期大学卒業生として奮起した時期、技師として奮起した時期、全国の技師と連携を図り更なる向上を目指した時期の4つに分けられます。

もともと技師を目指した理由も曖昧で、現在の職場に就職したものの、いつ辞めても構わないとの思いは募る一方でした。当時はまだ学閥の名残があり、当院の技師のほとんどが国立大学出身で肩身が狭く、医療界における技師の地位の低さにも閉口し、フラストレーションが増大していきました。

そうした中、結婚と第1子誕生を機にこのままではだめだと思い、九州と山口県に在職の放射線技術科同窓生に声をかけ、“倉友会”を設立しました。倉友会では専門性や社会性の向上を目標に掲げ、研究発表等の学術研修会を多く盛り込み、旧交を温める同窓会とは一線を引きました。同じような思いの同窓生も多く、次第に大きな盛り上がりを見せ、10周年記念式典では恩師の梶原 康正教授をお招きし盛大な研究会を開催しました。倉友会は、その後優秀な後輩たちに引き継がれ、更に成長を遂げて近々30周年を迎えます。

次に取り組んだことは、医療界における技師の地位向上や信頼される技師の教育です。主たる業務としてきた放射線治療を去り、CTという新天地に活路を求め、地域に研究会を発足させ、技師のレベル向上のために日々研鑽（けんさん）しました。20年が経過し、現在も進行中ですが、優秀な後

輩たちも多く育っており、今後大いに期待できます。

技師の専門性や社会的地位の向上を目標に行ってきた活動が評価されたのか、認定講習会等に駆り出されるようになり、活動の場が九州から全国へと広がりました。平成24年4月から技師長という管理職につきましたが、目標はあくまで「技師の社会的認知度や地位の向上、憧れの職種となること」であり、今後も努力していきたいと思っています。

在校生の皆さんに

卒業後の進路には、医療人、研究者、教育者などがありますが、多くの皆さんは医療界に就職されると思います。医療人には、「法令を遵守すること、社会的責任に応え適切な行動をとること、専門的知識や技術の向上と発達を図り健康福祉の向上や医療界の発展に寄与し社会に貢献すること」が求められます。「なぜ技師を目指すのか、技師になったら何をすべきか、何ができるのか」を在学中、卒業後、また悩んだ時に再確認してほしいと思います。

近年、多くの職場で「心の病」が増加しています。就職をゴールとする人が多いためか、5～10年経つと仕事における目標を失い、人間関係で悩む人が出てきます。教育制度の弊害や社会性の欠如が一因と考えられます。高度な専門的知識を学ぶことも重要ですが、自己を見つめ、自分の役割や存在意義を再認識できるところ、それが大学ではないでしょうか。学問的に優秀な学生よりも社会に適應できる学生の育成が優先であり、専門知識は就職後の基礎と位置付けるべきでしょう。

「常に目標を持つ」「自身の存在意義を高める」「周囲からの信頼を得る」「信頼できる多くの仲間を作る」「常に謙虚で」、これから社会へ巣立っていく在校生へ、この5つをキーワードとしてお送りするとともに皆さんの今後のご活躍を大いに期待しております。



倉友会総会（筆者前列左端）

学友会 活動報告

学園祭実行委員長 放射線技術科 2 年 岩鼻 早紀

研修旅行

10月の学園祭に向けて交流を深めるため、広島県福山市鞆の浦にある仙酔島に9月13日から14日の1泊2日で研修旅行に行きました。1日目は、みんなで江戸風呂に入りました。江戸風呂は服を着たまま、洞窟蒸し風呂や高濃度海水の胎内風呂など8種のお風呂に順番に入るもので、デトックス効果（体内の有害物や老廃物を排出する効果）があるというお風呂です。夜はみんなで海の幸を食べ、海ほたるを観て、花火もして楽しみました。2日目は、仙酔島の海で釣りをしました。初心者が多く、ハプニングもありましたが、交流を深められました。まだあまり話したことがなかった人とも話すことができ、学園祭に向けてより団結できた研修旅行でした。



清掃活動

日頃お世話になっている近隣の方々と、本学周辺地域に感謝の気持ちを込めて、9月29日に清掃活動を行いました。今年もたくさんの学生や先生方がボランティアとして参加してくださり、ゴミ拾いだけでなく、舗道の草取りもできました。おかげさまで、きれいな場所で気持ちよく学園祭を迎えることができました。



第1回

松丘会ホームカミングデー開催

～ 母校に集え同窓生 ～

10月6日(土)の川崎学園祭初日の午後から、本学と松丘会との共催によるはじめてのホームカミングデーが開催され、記念式典と懇親会には、当初の予想を上回る約180名の同窓生が出席しました。

記念式典では、小郷 正則松丘会会長の挨拶、山口 恒夫学長からの祝辞、招待者紹介、学歌斉唱が行われました。引き続き行われた記念講演では、山口学長から「数はいのちを支配する ～生きものにみられる冗長性～」と題する講演があり、生きものにおける産卵の数や手足・目などの器官の数などの多様性が紹介され、生きるための「数の多さ」の重要性を例えに、川崎医療短期大学が生き抜くためには、同窓生(約1万3千人)との連携が不可欠であると締めくくられました。

懇親会のはじめに、曾谷 貴子実行委員長と安西 貴史卒業生代表の挨拶、本学と松丘会との連携強化を推し進めてきた今城 吉成前学長に祝辞をいただきました。下田 健治副学長による乾杯の音頭の後、恩師を囲んでの交流・歓談で盛り上がり、にぎやかで楽しいひとときでした。

ホームカミングデーは毎年開催される予定です。同窓生の方々のご参加をお待ちしています。

※ホームカミングデーの様子は、川崎医療短期大学松丘会のHP内のブログ(松丘会navi.)からご覧になれます。
<http://syokuyukai-navi.cocolog-nifty.com/blog/>



▲小郷同窓会会長による開会の挨拶



▲下田副学長による乾杯の挨拶



▲懇親会の様子

支援は「子どもの理解」から

医療保育科 助教 中井 靖

「ちょっと気になる子どもへの発達支援」をテーマに、第3回公開講座（主管:医療保育科）が10月6日に開催されました。ちょっと気になる子どもは「どうしてそんなことするの?」と、周りから理解されにくいことがあります。本講座では、子どもの気持ちを解説し、「やってみようかな」と思える遊びや言葉かけのコツについて話しました。



ちょっと気になる子ども

「いつも乱暴なことばかりするA君が突然B君の腕をガブツとかんだとき、あなたはどうしますか?」。会場にいられた方に尋ねると、「まずはB君のケガを確認する」「A君の気持ちを聴く」という答えが返ってきました。しかし、本音では「かんだらダメでしょ!またやって!」と怒ってしまいませんか。

「何をかんだときに一番スッキリするか」をテーマにした研究があります。それはガムでも煎餅でもなく、「人の腕」と報告しています。硬さや弾力もですが、人肌という温かさが何よりの要因かもしれません。きっとA君はB君と一緒に遊ぶ中でイラツとすることがあり、以前に腕をかんでスッキリした経験があったため、今回も同じようにしたのでしょう。もちろん、人をかむことは認められることではありません。ただ、「そうだよな、かみたいよね。でも、こうしたらかまなくてすむよ」と、子どもの気持ちに共感し、同じようなトラブルが起きない方法を伝えることが大人の役割です。

「自立」を目指したかわり

「あなたは大きな魚を釣りました。隣にやせたおじいさんがいます。どうしますか?」。それに対する答えは「魚をおじいさんにあげる」「やせた原因を聴く」、それとも「気づかなかったことにする」でしょうか。

おじいさんの「自立」を考えた場合、「おじいさんに釣り方を教える」というのがひとつの答えです。同じようなことが再び起こったとき、自分で対処できるようにするためです。同様に子どもについても、思い通りにいかないときに「こうすればうまくいくよ」と言葉かけをすることが「自立」への第一歩となります。



▲ 200名を超える参加者…とても緊張しました

やめてほしい行動

心理療法のひとつである行動療法の視点から、やめてほしい子どもの行動を3つに分けることができます。

① 分からずにしてしまう

どうして良くない行動なのかが分からないためになってしまう「未学習」の場合です。その場で「こうしたら良い」と正しい対応を伝えます。何がダメなのかが分からないので、「ダメ」と言っても意味がありません。

② パニック

まずは落ち着かせます。人が少ない場所や静かな場所へ移動します。落ち着いてから子どもの気持ちを聴いたり、大人の思いを伝えたりします。その場で「ダメ」と言っても、火に油です。

③ 危険な行為

道路に急に飛び出したり、自分や相手を傷つけたりする行為に対しては、その場でしっかりと叱ります。この場合、大人だって冷静にはいられません。叩いたり罰を与えたりしてはいけません。「お母さんは悲しい」と感情を含んだ言葉で伝えることが大切です。

また、「叱る」と「ほめる」のバランスが大切です。ダメが伝わりにくい子どもはほめられても喜ばず、両者は表裏一体の関係です。ほめることは「あなたのいいところに、私は気づいているよ」を伝えることでもあります。

最後に

ちょっと気になる子どもは大人の育て方に強く影響を受けます。そのため、発達支援は「大人が子どもを理解すること」から始まります。また、子どもが小さいときは会話力が重視されますが、大きくなると理解力よりも理解力が重視されます。いつ支援の視点を切り替えるかは大変難しい判断です。子育てのことで悩んだときは、ひとりで頑張り過ぎないでください。周りの人や専門家に相談してください。そして、子どもも大人も健やかに成長していきましょう。

東日本大震災

復興支援学生ボランティアに参加して

看護科3年 船本 朋美

看護科1年 目次 真里奈 西村 由衣子 原田 あゆみ

私たち4名は、大学コンソーシアム岡山・岡山経済同友会主催の震災復興支援ボランティアの一員として、8月22日から25日まで岩手県大槌町での支援活動に参加しました。



1日目

22日午後、バスで岡山を出発して、翌朝大槌町に着き、すぐに大槌中学校の清掃を行いました。校内は天井が剥がれ落ち、床は砂と動物の糞で汚れており、何とも言えない臭い^{にお}がしていました。教室の黒板には、3月11日（卒業式前日）の「みんなで集まろうね」などのメッセージや、被災後の「皆で災害を乗り越えよう」などの励ます言葉が書かれており、被災した時のまま時間が止まっているようでした。



火災によって焦げたアルバムや泥だらけのトロフィー、大事な書類などの思いつく出の品を片付けるときに、現地の方が「これは自分たちではできないな」と呟^{つぶや}いていたことから、この大槌中学校の片

付けは、ボランティアをしている私たちだからこそできることだと思いました。



2日目

大槌中学校の校長、小野 永喜先生が生徒にお肉を食べさせてあげたいということから、バーベキューをして中学生と交流しました。中学校に着いて小野先生からさまざまな話を伺いました。被災者と支援者という関係の交流をしてほしくないことや本当に必要な支援とは何かという話を伺い、考えさせられました。子どもとどのように交流したらよいか戸惑いがありましたが、様子を見てみると、同年代の子どもと変わらず、安心しました。その子どもたちの明るさが、大人の方々の支えになっているのだと思います。

バーベキューの後、小野先生に大槌町を案内していただきました。流されてしまった駅の跡や何もない大槌町を実際にみて、被害の大きさを改めて痛感しました。また、火災によって焼けた木をみて、二次災害の恐ろしさを感じました。

夜は、被災者の方のお話を直接聞かせていただきました。メディアで放送されている情報とは比べ物にならないくらい、臨場感があり怖かったです。息子さんが消息不明になった方の涙ながらの「これ以上大切な人を奪わないで」という言葉に、命の重みを感じました。地震の後の火災によって命を落とした人もい

るというお話では、二次災害の恐ろしさを知りました。同時に、避難所によって差はあるものの、被災された方それぞれが役割をもって行動されていた話を伺い、緊迫した状況でも助け合い、毅然と振舞っておられたことに感銘を受けました。大槌稲荷神社禰宜^{ねぎ}の十王館 勲^{じゅうおうだて いさお}さんの締めくくりの言葉「皆さんはきれいな死に方をしてください」に、この方はどれだけたくさんの辛い死に方をみてきたのだろうかと思いが痛みました。

3日目

大槌稲荷神社の片付けをしました。神社には、壊れた防災用の長靴や各地からの支援物資、腐った木が多くあったことから、震災から1年半の時間の経過を感じました。



私たちがボランティアに参加したのは、テレビで傍観者の立場からみるのではなく、直接かかわりたいと思ったからです。今回のボランティア経験から、本当に必要なボランティアとは何かを考えることができました。また、将来起こると言われている南海沖地震などの自然災害に備えて、見聞きしたことを看護師として生かしていきたいです。地元の人を含め今回お世話になった方々から得たものを胸に、前に進んでいきたいと思っています。

教職員を対象としたハラスメント防止講演会の開催

ハラスメント防止委員会 山根 正信

平成 24 年 9 月 27 日に、本学教職員を対象としたハラスメント防止講演会を開催しました。講師は岡山大学健康管理センターの清水 幸登先生にお願いしました。清水先生は精神科医であり、主にメンタルヘルスの専門家で、毎年開催している学生対象のハラスメント防止講演会にも講師をお願いしている先生です。

当日は学年によっては後期の授業が開講されており多忙な中、約 60 名の教職員が参加しました。多くの参加者は学生対象の講演会にも参加していますので、今回は清水先生にお願いして、特に教職員向けの話題を提供していただきました。約 1 時間の講演で、今まで理解が不十分であったハラスメントの知識が更に身に付いたと思います。セクハラを防止するための法律はありますが、アカハラやパワハラなどに対する法律はまだ未成立であります。しかし、他の法律に照らして罰せられることも考えられ、教職員は学生や同僚への言動に対して十分な配慮が望まれます。

今回の講演会では、清水先生からハラスメントに対して適

応できる法律に関して説明がなされ、罰則も重いものから軽いものまであることが明らかになりました。ただ、ハラスメントが生じてからでは、加害者も被害者も何らかのダメージを受けることになりかねません。したがって、それを防止する目的でこのような講演会を開催しました。今後も定期的にこのようなハラスメント防止のための講演会を開催したいと思っています。



11月11日は「介護の日」 “介護フェア”に参加

介護の日を記念する“介護フェア”が、11月10日(土)に、(社)岡山県介護福祉士会と岡山県介護福祉士養成協議会の協賛のもと、岡山県社会福祉総合会館において行われました。本学の参加も今年度で4回目となり、学生と教員、総勢 39 名で会を盛り上げました。

イベントの前半は、介護福祉士を養成する専門学校や短大、大学など県下 10 校の学生によるアトラクションでした。各校で、この日のために練習を重ねてきた創作劇や手話劇、介護予防体操、お囃子などが披露されました。本学は、「上を向いて歩こう」「ハナミズキ」「トイレの神様」の 3 曲の手話歌を楽器演奏とともに行いました。最後には、参加した養成校が一緒になってうらじゃ踊りを踊り、会場は若い力で熱気に包まれていきました。



後半では、

高齢社会をよくなる女性の会代表の樋口 恵子氏を講師に「利用者から見た介護への提言」と題する記念講演が行われました。樋口氏は、「介護は、人間しか行わない営みであり、まさに人間の証明である」と述べ、人間の尊厳を保ち、豊かな生を全うすることを支える介護のすばらしさについて話されました。そして、曾孫のようだと笑顔で学生たちを見ながら「国民が創ったとも言えるべき介護保険制度は日本の誇るべき法律であり、そのなかで働く皆さんには、誇り高く生きていただきたい」とエールを送っていただきました。

ほかにも、介護福祉士会の青年隊によるメッセージやケアマネジャーによる介護相談、学校紹介、介護関連企業などの福祉用具展示ブースもあり、興味を持って触れ、体感し、また見入るシーンが各所で見られました。今年も、各関係者の介護に対する想いや希望が結集した記念イベントになりました。(辻 真美)



くらしき&おかやま

by 写真部

vol.3 本学近くの素敵発見！

今回は、RSKバラ園と犬養木堂記念館を紹介します。バラ園は、本学から県道沿いに東へ3kmのところにあります。11月の晴れた日、自転車で出かけました。鮮やかな紅葉の並木を抜けていくと、色とりどりのバラの花が咲き乱れた園庭が開けています。こんなに近いところにこんな素敵な場所が!という感じです。



RSKバラ園

RSK バラ園は、山陽放送がラジオ送信所の用地を利用し、地域の人々の憩いの場として昭和 49 年に開園しました。春は 5 月中旬から 6 月上旬、秋は 10 月中旬から 11 月上旬の年 2 回のシーズンに最も美しいバラが楽しめます。梅園、サクラ並木、チューリップ、ボタン、アジサイなど四季折々の花木も植えられています。



アンバークイーン

花名は「琥珀の女王」の意味です。やや渋みのあるオレンジ色の丸弁平咲きで、数輪の房になって開花します。花弁は浅く波打ち、花つきがとてもよく、次々と咲きます。花には強い香りがあります。



ラバクルート

ドイツから作出された花で赤色が特徴です。秋に咲く花が最も黒みが濃く、花弁がしっかりしていて、花持ちが良いです。また、耐病性・耐寒性に優れています。



犬養 木堂記念館

犬養 毅（木堂）は明治から昭和にかけて、政党政治の確立などで活躍した岡山県の政治家です。昭和 6 年に 76 歳で第 29 代内閣総理大臣となりましたが、翌年 5 月 15 日、首相官邸において凶徒に襲われ、「話せばわかる」の言葉を最後に志なかなにして没しました。木堂生家は、昭和 53 年 1 月に国指定重要文化財に指定され、犬養 木堂記念館として一般公開されています。



この写真は木堂記念館の中庭で、木堂生家から小川を隔てた隣地に作庭されたものです。紅葉がとてもきれいでした。木堂記念館には、和を愛した政治家犬養 毅の遺品、写真、手紙、書などが展示しており、木堂の肉声による演説も聴くことができます。

取材、撮影：臨床検査科 1 年 小谷 侑希、手銭 遥
臨床検査科 2 年 香西 亜耶、村上 麻理、藤原 絵里
放射線技術科 1 年 中山 愛、成木 治美

第10回 編集手帳見出しコンテストにて2名が佳作を受賞

読売新聞大阪本社主催の「第10回編集手帳見出しコンテスト」にて、看護科1年次生の三原 愛美さんと依田 理恵子さんが佳作を受賞しました。このコンテストは、読売新聞の朝刊一面のコラム「編集手帳」に見出しをつけるものです。今回は、23,048名の応募の中から、優秀賞5点と佳作66点が選ばれました。

本学の「日本語」と「文章表現」の講義では、新聞記事の内容をひとことで表し、読み手をひきつける見出しを作ることを目標に、受講者全員が毎回この課題に取り組んでいます。佳作を受賞した2名は、課題のコラムに対して、ともに「人生を生ききる」という見出しをつけました。



▲受賞者の三原さんと依田さん

第9回 海外日系文芸祭 (みなとみらい文芸祭) にて2名が入選

財団法人海外日系人協会と海外日系新聞放送協会の共催で行われた「第9回海外日系文芸祭(みなとみらい文芸祭)」の短歌部門(学生の部)にて、放射線技術科2年次生の岩鼻 早紀さんと佐田 実由季さんが入選しました。この文芸祭は、短歌と俳句を通して、海外日系社会との交流をはかることを目的に、日本だけでなく広く海外にも作品募集を行うものです。

本学では、昨年度後期の「文章表現」の講義の中で取り組みました。受賞者の作品は下記の通りです。



▲受賞者の岩鼻さんと佐田さん

カーテンを開けると見える真っ白の道に足跡つけに行きたい

放射線技術科2年 岩鼻 早紀

もう嫌いいくら言葉を並べても心はあなたを離しはしない

放射線技術科2年 佐田 実由季

地球温暖化対策
ワーキング
グループだより

**川崎エコ
プロジェクト**

NO.19

**電気
エネルギー
依存からの
脱却**

日本 7,833、インド 597、皆さん、何を表した数値かわかりますか。

これは、2009年の国民一人当たりの年間電力消費量[kWh]を表したものです。同じ人間でありながら13倍の比を皆さんは、どのように思われますか。

電気製品に囲まれた生活になればなるほど、当然ですが電力消費は増加します。世界中でエコが叫ばれるようになって久しく、我々もエネルギー依存の便利な生活スタイルからそろそろ脱却すべき時代にさしかかっていると思うのですが…。

「エネルギー依存のエゴから、エネルギー脱却のエコ」へ大きく舵を切り、限りある地球資源を子孫に残すべく、身近にできる省エネからコツコツと取り組んでいきましょう。

ちなみに、私は日中の明るいときには、居室の電気を消して省エネに取り組んでいます。また、気がつけば不要な電灯は消すように心掛けています。しかし、パソコン漬けの日々で電気エネルギー依存から脱却できないのは、電気通信系大学卒業の性でしょうか。(板谷 道信)

新任教員紹介

本学の仲間になった職員の方を紹介します。



■ 中野 恵子 庶務課 事務職員

学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう、勉学に集中できる環境作りのお手伝いができればと思っています。小さなことでも気軽に相談してくださいね。

上海からニーハオ!!

10月4日に上海から来日しました。半年間の研修期間の後、来年4月に看護科へ入学予定です。皆さん、よろしくお願いします。



◆ 楊 晨
(YANG CHEN)
上海市衛生学校 卒業

◆ 潘 文煒
(PAN WENYE)
上海市衛生学校 卒業



主要行事（1月～3月）

1月

4日 仕事始め
19日 医療保育科3年オペレッタ発表会
26日 看護科1年基礎看護学実習1開始（～2/9）
〃 医療保育科2年保育実習成果発表会

2月

3日 一般入試前期（学生は校内立入禁止）
8日 一般入試前期合格発表
20日 介護福祉科2年卒業研究発表会
27日 在学生健康診断（～28）

3月

15日 卒業証書・学位記授与式
17日 一般入試後期（学生は校内立入禁止）
19日 一般入試後期合格発表

放射線取扱主任者試験 合格者

【第2種】（放射線技術科3年1名、2年11名）

岡崎 真奈 岩鼻 早紀
榎本 裕文 岡崎 純周
尾上 健太 川島 歩
河村 南 佐藤 舜
瀧口 和也 福島 康介
本田 千恵 力武 紗也香

【放射線取扱主任者とは】

放射線業務従事者や一般公衆等に対して放射線障害が起こらないように、放射性同位元素等の取り扱いについて監督を行います。一定数量以上の放射性同位元素等を使用・保管する施設では、この免状を取得した「放射線取扱主任者」を配置する必要があります。

平成24年度AO入試（前期・後期）結果

AO入試前期

試験日：8月25日（土） 合格発表：8月31日（金）

	看護科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	20	15	20	55
出願者数	73	16	36	125
出願倍率	3.7	1.1	1.8	2.3
合格者数	22	14	31	67

AO入試後期

試験日：10月14日（日） 合格発表：10月19日（金）

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	15	5	5	15	10	50
志願者数	44	35	46	5	1	131
志願倍率	2.9	7.0	9.2	0.3	0.1	2.6
合格者数	15	6	6	4	1	32

平成24年度一般入試（前期・後期）日程

試験区分	願書受付期間	試験日
一般前期	平成25年1月7日（月）～1月26日（土）【消印有効】	平成25年2月3日（日）
一般後期	平成25年2月25日（月）～3月9日（土）【消印有効】	平成25年3月17日（日）

国 家 試 験 日 程

区 分	試 験 日	合 格 発 表
第102回 看護師国家試験	平成25年2月17日（日）	平成25年3月25日（月）
第59回 臨床検査技師国家試験	平成25年2月20日（水）	平成25年3月29日（金）
第65回 診療放射線技師国家試験	平成25年2月21日（木）	平成25年3月29日（金）

川崎医療短期大学広報誌 「若きいのち」(79号)

2012年12月発行

編集発行：広報誌編集委員会

天野 貴司（放射線技術科・委員長）
河邊 聡子（医療介護福祉科・副委員長）
名木田 恵理子（一般教養）
見尾 久美恵（一般教養）
重田 崇之（一般教養）
影本 妙子（看護科）
永瀬 澄香（臨床検査科）
中井 靖（医療保育科）
山田 篤（庶務課）
重政 有里（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話：086-464-1032（庶務課）

Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>

編 集 後 記

今年のノーベル医学生理学賞を京都大学iPS細胞研究所長である山中 伸弥教授が受賞されたニュースは、日本全体をパツと明るくしてくれました。受賞後の会見では、自分を信頼して地道な研究を続けてくれたスタッフ、温かく支えてくれた家族に対する感謝の言葉があり“まだ一人の患者も救っていない”という謙虚な言葉に心を打たれました。

今回の「若きいのち」では、秋晴れのもとに行われた学園祭、恩師と卒業生が温かく交流した第1回ホームカミングデーなど、川崎医療短期大学の今を紹介しています。また、特集では、臨床や教育の現場で活躍し、社会に貢献している本学の卒業生を紹介しています。ノーベル賞の山中教授も本学の先輩方も、目指すのは“医療は患者さんのため”ではないでしょうか。皆様の心がほっと和み、温かなるような記事を今後も掲載していきたいと思っております。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず快く執筆をお引き受けいただきました皆様に深く感謝申し上げます。
（影本 妙子）